

かながわ畜産まめ知識

系統豚

系統豚とは

お互いに一定以上の血のつながりを持った豚の集団のことを「系統」、系統をつくる事を「系統造成」、そしてその集団を構成するそれぞれの豚を「系統豚（けいとうとん）」と言います。

(社)日本養豚協会に認定される系統は、一定規模（雄5、雌20）以上の維持群を持つ必要がありますが、群内の全ての豚に、造成を開始するとき基礎豚とした豚の血縁があることが条件になっています。血縁係数（血のつながり度合い）は同腹のきょうだい同士が50%、異母きょうだい同士が25%、いとこ同士が12.5%となりますが、系統は群内のすべての個体同士が異母きょうだいに近い血のつながりを持っている集団として造成するため、群内のどの豚も「能力」がほぼ揃っている状態になります。

この系統豚を肉豚生産に利用することにより、発育性や産肉性（肉をつける性質）が揃った肉豚を長期間にわたり生産することが可能となります。

系統造成は昭和44年度から全国的に取り組まれており、平成20年3月現在、全国でランドレース種19、大ヨークシャー種12、デュロック種5、バークシャー種3、合成系統豚1の計40種類の系統豚が維持されている他、15種類の系統豚が新たに作られています。

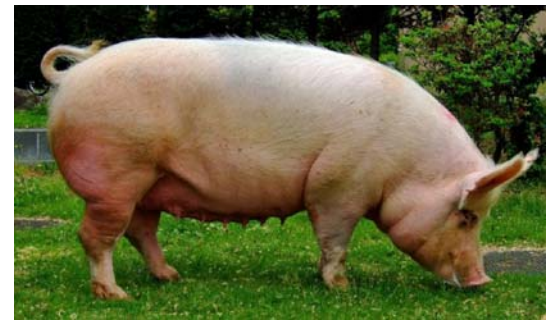


神奈川の系統豚

県畜産技術センターでは、平成3年度に完成し、(社)日本養豚協会に平成4年に認定された大ヨークシャー種の系統豚「カナガワヨーク」(写真1)と、平成14年度に完成し、平成15年に認定されたランドレース種の系統豚「ユメカナエル」(写真2)の二つの系統豚の維持、配布をしています。

カナガワヨークは産肉性に重点を置き改良した系統豚で、名称は県民からの応募235点の中から当時の長洲県知事によって命名されました。

ユメカナエルは繁殖性（子供をたくさん産む）と強健性（足腰が強くて丈夫）を重視して改良した系統豚で、四つの候補名の中から県畜産技術センターのホームページを利用して系統豚のイメージに一番ピッタリな名称を県民からの投票により決定しました。



カナガワヨークの繁殖豚(雌)



ユメカナエルの繁殖豚(雌)

系統豚の利用状況

二つの系統豚を交配して生まれた交雑種雌豚（F₁雌豚）は、両方の高い能力を受け継いでいるため、肉豚を生産する母豚に適しています。

さらにこのF₁雌豚に県内生産者が飼養している肉質の優れたデュロック種の雄豚を交配して「三元交雑種※」の肉豚をすることによって、これまで以上に生産性が高く、おいしい豚肉の生産が可能となります。（※「豚の品種」のページ参照）

現在、本県では生産者がこれらの系統豚を効率的に利用できるように、生産者団体である(社)神奈川県養豚協会を中心とした配布体制が整備されています。畜産技術センターでは系統豚の維持・繁殖を担当し、養豚協会は育成・配布を担当し、県内養豚農家のF₁雌豚生産の基礎豚として毎年約100頭を供給しており、県内の肉豚生産の約10%に寄与しています。

また、この2つの系統豚を活用して生産された豚肉は「かながわ夢ポーク」としてブランド化され、販売されています。

参考 かながわ夢ポークホームページ／(社)神奈川県養豚協会・(社)神奈川県畜産会